

対 象 学 年	小学校 第6学年
学 習 指 導 要 領	第5学年及び第6学年 「E ボール運動」
単 元 名	「ソフトバレーボール」 （全9時間）
単 元 目 標	<p>(1) 技 能(運動の技能) カバーし合ってボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる。</p> <p>(2) 態 度(運動への関心・意欲・態度) 認め、励まし合って活動し、ソフトバレーボールの楽しさや協力することのすばらしさを味わうとともに、ルールやマナーを守り、安全に気を付けて練習やゲームをする仲間になることができる。</p> <p>(3) 学 び 方(運動についての思考・判断) 自分たちのチームのよいところを生かし、チームで作戦を工夫して練習やゲームをすることができる。</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 単元指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバレーボールの「ゲームの上達過程」と児童の興味・関心、施設、用具等の条件を十分に踏まえて作成する。 ・アンダーハンドやオーバーハンドでのボール操作、サーブなどの技能を習得できるよう、ボールに触れる機会を多くするための工夫をする。 ・グループの課題に応じた練習方法が選択できるよう、練習方法をいくつか例示する。 ・グループのよさを生かした作戦を考えることができるよう、コートでの守り方(ポジションのとり方)を例示する。 ・グループの課題が達成できるよう、声のかけ合いなどの教え合いを大切にし、価値付けたり広めたりする。 ・集団の凝集度が高まるよう、めざす仲間の姿を具体的に示し、教え合いや励まし合いを大切にする。 <p>単位時間の工夫 <計画の場面> ・児童が見通しをもち、進んで活動することができるよう、1時間の学習の進め方を具体的に示す。 ・全体計画会では、グループや個人の課題が明確につかめるよう、動きのポイント、練習方法、どんな仲間をめざすのかを具体的に提示する。 ・グループ計画会では、グループの課題を達成するために、個人課題を明確にするとともに、グループに合った練習方法や作戦を立てることができるようにする。</p> <p><展開の場面> ・練習やゲームでは、援助を必要とする児童やグループを中心に指導を行う。 ・ゲーム中は、グループのよい動きや課題となる動きを的確に見付けるため、外からアドバイスする児童を位置付ける。 ・ゲーム記録やビデオなどにより、客観的に自分たちの姿を把握できるような機会を設ける。</p> <p><評価の場面> ・グループ反省会では、個人の努力を評価するだけでなく、グループの課題とつないで振り返らせ、次時の課題づくりをする。 ・ゲームの勝敗や得点のみで評価するのではなく、グループや個人の課題が達成できた具体的な姿を価値付けるようにする。</p> <p>用具の工夫 ・本単元では、中学校の「バレーボール」への発展を意識し、ゴム製ソフトバレーボール(200g)を使用する。ボールの材質や重さによってゲームの様相が変わるため、実態に応じてボールの種類を選択する必要がある。</p>
参 考 資 料	<p>資料1：学習カード1...グループ計画会、学習の進め方を理解するために使用</p> <p>資料2：学習カード2...グループ課題、作戦、ゲーム記録・結果、反省の記録として使用</p> <p>資料3：学習カード3...個人の課題・反省・きまりの振り返りに使用</p>

2 単元の評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
内容ごとのまとめと評価の規準	<p>友達とともに、ボール運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、勝敗に対して正しい態度をとろうとするとともに、安全に練習やゲームをしようとする。</p>	<p>チームの特徴を知り、作戦を立てたり、ルールを工夫したりしている。</p>	<p>バスケットボール、サッカー、ソフトボールまたはソフトバレーボールについて、簡単な作戦を生かしてゲームをするための技能を身に付けている。</p>
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームに適した課題をもって、練習やゲームに進んで取り組み、楽しもうとする。 (楽しさ体験) ・ ルール・マナーを守り、審判の判定に従ったり、勝敗を素直に認めたりしようとする。 (社会的態度) ・ 友達と協力し合い、練習の場をつくろうとしたり、用具の準備をしようとする。 (社会的態度) ・ 運動をする場や用具の安全を確かめようとする。 (安全な態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームのよさを生かした作戦を立てている。 (課題達成) ・ チームの作戦に合った練習を選んでいる。 (課題達成) ・ ソフトバレーボールのルール、各ポジションの動き方について理解している。 (知識・理解) ・ 目指す姿になったか、自分やチームの姿を振り返ることができる。 (評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両手や片手でボールを操作し、相手コートに返すことができる。 (技能向上) ・ 自分のポジションや相手の状況に応じて、両手や片手でボール操作をし、相手コートに返すことができる。 (技能向上) ・ ルールに従って、公平に審判ができる。 (審判)

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
単 位 時 間 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバレーボールで、目指すゲームの姿をイメージし、意欲をもつことができる。 ・運動する場や用具の安全を確かめ、運動しようとする。 ・自分の役割を果たし、協力して学習の準備、片付けをしようとする。 ・仲間のプレーに対して、声をかけながら活動しようとする。 ・仲間の努力やよさを認め合い励ましの声をかけたり教え合ったりして、力を合わせて活動しようとする。 ・ルールを守り、審判の判定に素直に従おうとする。 ・ソフトバレーボールの楽しさや喜びを味わうことができたか振り返ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームが成立するために必要な最小限のルール（得点、人数、返す本数、安全）や学習の進め方を理解している。 ・ゲーム記録や反省から、自分たちのチームのよいところや課題を明らかにしている。 ・自分や仲間のがんばりを具体的な姿で振り返り、認め合っている。 ・チームの課題に応じた練習方法を選択している。 ・仲間の声やアドバイスから動きの判断をしたり、うまくできなかったときの原因を考えたりしている。 ・チームで話し合い、自分たちのよさを生かす守り方や相手を意識した返し方の作戦を立てている。 ・ねらいやねがいが達成できたか具体的な姿で振り返っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの落下点へすばやく移動して、両手や片手でボールを操作をすることができる。 ・状況に応じてオーバーハンドとアンダーハンドの使い分けをしたり、ボールを両手や片手で操作したりすることができる。 ・ボールの方向へ体を向けて1歩踏み出し、カバーをすることができる。 ・1本目を山なりの高いボールでコートの中へ上げ、つないで相手コートへ返すことができる。 ・サーブのイン・アウトや返球回数などを正しく判断して審判をすることができる。

3 指導と評価の計画 (全9時間)
 (1) 評価規準を盛り込んだ単元指導計画

ソフトバレーボール 単元指導計画

F 小学校

条件 過程	学 習 内 容		観 点 別 評 価 規 準 及 び 方 法			
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	
計 画 展 開 評 価	1	ねらい 「カバーし合ってボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる」	ねがい 「認め、励まし合って練習やゲームを行い、力を合わせて活動することのすばらしさを分かり合える仲間になることができる」	・ソフトバレーボールで、目指すゲームの姿をイメージし、意欲をもつことができる (学習カード・観察)	・ゲームが成立するために必要な最小限のルール(得点、人数、返す本数、安全)や学習の進め方を理解している (学習カード・観察)	
	2	ためしのゲームでグループの課題を見付けることができる	学習のきまりに従って活動できる	・運動する場や用具の安全を確かめ、運動しようとする (観察)	・ゲーム記録や反省から、自分たちのチームのよいところや課題を明らかにしている (学習カード・観察)	・ボールの落下点へすばやく移動して両手や片手でボール操作をすることができる (学習カード・観察)
	3	ボールを落とさないで、返すゲームをすることができる	係の役割を果たし、てきぱきと活動を進めていくことができる	・自分の役割を果たし、協力して学習の準備、片付けをしようとする (学習カード・観察)	・自分や仲間のがんばりを具体的な姿で振り返り、認め合っている (学習カード・観察)	・状況に応じてオーバーハンドとアンダーハンドの使い分けをしたり、ボールを両手や片手で操作したりすることができる (学習カード・観察)
	4	・すばやくボールの落下点へ動き、ボールを操作する ・ボールの高さに合わせて、オーバーハンドやアンダーハンドを使ってパスをする ・「オーバー」「アンダー」「はい」「お願い」などの指示の声をかけ合って活動する	リーダーの指示に従い、協力してチーム練習を進めることができる	・仲間のプレーに対して声をかけながら活動しようとする (観察)	・チームの課題に応じた練習方法を選択している (学習カード・観察)	・ボールの方向へ体を向けて1歩踏み出し、カバーをすることができる (学習カード・観察)
	5	カバーし合ってボールをつなぎ、相手コートに返すゲームをすることができる	練習・ゲーム・反省会などで、お互いを認め合い、励ましの声をかけることができる	・仲間の努力やよさを認め合い励ましの声をかけたり教え合ったりして、力を合わせて活動しようとする (学習カード・観察)	・仲間の声やアドバイスから動きの判断をしたり、うまくできなかったときの原因を考えたりしている (学習カード・観察)	・1本目を山なりの高いボールでコートの中へ上げ、つないで相手コートへ返すことができる (学習カード・観察)
	6	・1本目のボールを高くコートの中へ返す ・「前」「さん」「大きく」「高く上げて」などの指示の声をかけ、教え合って活動する	・仲間のプレーを一生懸命見合う ・「ナイス」など、よいプレーに対する称賛、認めの声をかける ・「おしいよ」「ドンマイ」「次がんばろう」など仲間の失敗に対して励ます声をかける	・ルールを守り、審判の判定に素直に従おうとする (学習カード・観察)	・チームで話し合い、自分たちのよさを生かす守り方や相手を意識した返し方の作戦を立てている (学習カード・観察)	・サーブのイン・アウトや返球回数などを正しく判断して審判をすることができる (観察)
	7	【リーグ戦】 学習の成果を発揮し、ボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる	リーグ戦の進め方や役割分担に従い活動することができる	・ソフトバレーボールの楽しさや喜びを味わうことができたか振り返ろうとする (学習カード・観察)	・ねらいやねがいが達成できたか具体的な姿で振り返っている (学習カード)	
	8	・作戦を立て、工夫して、守ったり返したりする ・作戦ボードや動きなどで分かりやすく教える ・コートの中へ高い山なりのボールを上げ、つないで相手コートに返す	審判の指示に従い、公正にゲームを行うことができる			
	9	【反省会】 リーグ戦成績(順位) 課題達成度(グループ・個人)	協力活動の程度 集団結合度			

(2) 単元指導計画

ソフトバレーボール

単元指導計画

F小学校

条件 過程	学 習 内 容		学 習 活 動	教 師 の 指 導	
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面
計 画	1 ねらい 「カバーし合ってボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる」	ねがい 「認め、励まし合って練習やゲームを行い、力を合わせて活動することのすばらしさを分かり合える仲間になることができる」	・教師の話聞き、単元全体の見通しをもつ ・1グループ4～7人 グループ間等質、グループ内異質 ・グループで学習計画を立てる 役割の分担(L,PO,MO,ゼッケン、用具) めざす仲間像の決定、きまりの設定	・図やVTRなどを利用しゲームのイメージ化を図り、学習課題を明確にする ・学習ノートや掲示物を提示し、具体的に学習の進め方を説明する	・前時の価値ある姿を示し、認め合い励まし合いの大切さに気付かせ、目指す仲間の姿をつかませる ・きまりの守り方について具体的な場面を示して話す
展 開	2 ためしのゲームでグループの課題を見付けることができる	学習のきまりに従って活動できる	【場の設定】 ・バドミントンコート ・ネット2m ・ソフトバレーボール(高学年用) ・コート間に1コート増やし3面設置(活動の場の確保)	・ためしのゲームを通してルールを確認する ・ゲーム記録をもとに、ボールがつかない実態を示し、課題づくりをする ・オーバーハンドやアンダーハンドでのボール操作がうまくできない児童には、個別に指導をする ボールの下へ走って移動おでこの前で三角を作ってオーバーハンド肘を伸ばして体の正面でアンダーハンド ・ボールの落下点に素早く移動できるように助言する 後ろについて「前」「右」と声をかける ・ボールの方に体を向け、1歩踏み出すとカバーがしやすくなることを助言する ・1本目をコートの真ん中に高く上げると、カバーしやすくなることをコート上で動きを示し説明する ・相手コートへボールを返すときは、返したい方へ体を向け、高めに打つとよいことを助言する ・守り方を例示し、ポジションごとの動き方を話す	・安全に留意しながら準備や片付け、係の仕事、活動を進めているグループを全体の場で称賛する ・児童が互いに関わり合う言葉(声)を「動き」「励まし」「団結」の視点で分類し、黒板等に掲示することで、言葉(声)をかけたことを意識付ける ・応援をしたり喜び合ったりする個人やグループの姿を認め、全体に広める ・うまくできない児童に、実際の動きを示して教えたり作戦ボードなどを使って話したりする姿を価値付け、全体に広める ・動きが思うように高まらなくても、仲間の援助に任せようと、あきらめずに努力している姿を価値付ける ・グループ内のよい仲間の姿を全体反省会で紹介させ、互いのよさを見付けようとする意識を高める ・援助や要求が、非難にならないよう個々の目標を理解し合った上で活動できるようにする
	3 ボールを落とさないで、返すゲームをすることができる	係の役割を果たし、てきぱきと活動を進めていくことができる			
	4 すばやくボールの落下点へ動き、ボールを操作する	リーダーの指示に従い、協力してチーム練習を進めることができる			
	5 ボールの高さに合わせて、オーバーハンドやアンダーハンドを使ってパスをする	練習・ゲーム・反省会などで、お互いを認め合い、励ましの声をかけることができる			
	6 「オーバー」「アンダー」「はい」「お願い」などの指示の声をかけ合って活動する	練習・ゲーム・反省会などで、お互いを認め合い、励ましの声をかけることができる			
	7 カバーし合ってボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームをすることができる	練習・ゲーム・反省会などで、お互いを認め合い、励ましの声をかけることができる			
	8 【リーグ戦】 学習の成果を発揮し、ボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる	リーグ戦の進め方や役割分担に従い活動することができる			
	9 【反省会】 リーグ戦成績(順位) 課題達成度(グループ・個人)	協力的活動の程度 集団結合度			

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のめあて

技能の内容：カバーし合うことが大切だとわかり、ボールの方向へ体向け、1歩踏み出してボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる

態度の内容：お互いを認め合い、励ましの声をかける仲間になることができる

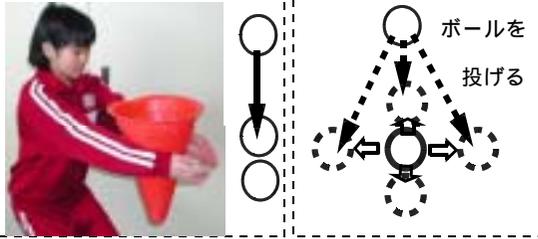
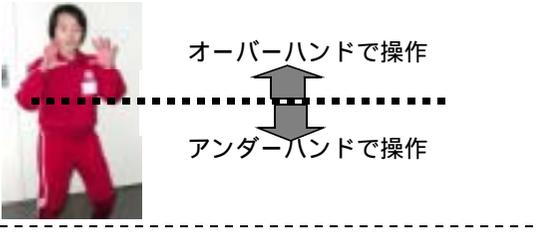
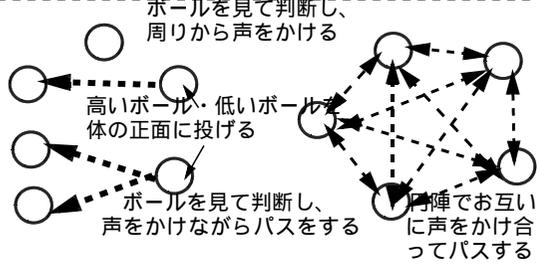
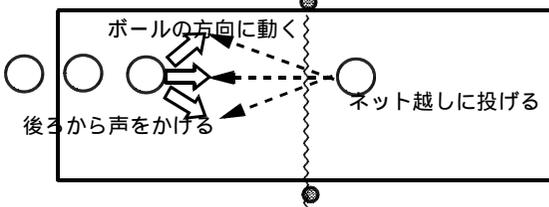
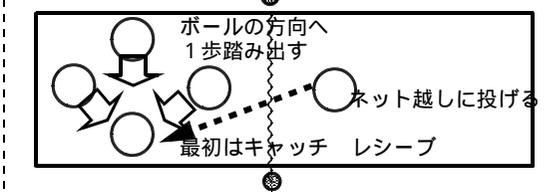
学び方の内容：チームの課題をはっきりさせ、練習やゲームに取り組むことができる

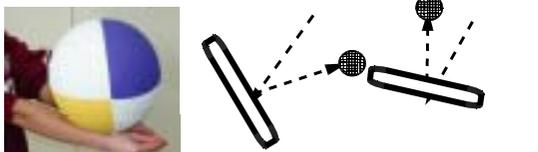
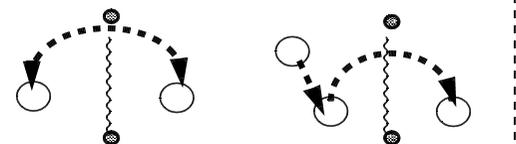
(2) 本時の位置 5 / 9 時

(3) 展開案

条件	学 習 内 容		学 習 活 動	教 師 の 指 導											
	運 動 の 側 面	集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 ・ 集 団 の 側 面	運 動 の 側 面 へ の 指 導	集 団 の 側 面 へ の 指 導										
計 画 会 画 5	<p>カバーし合ってボールをつなぎ、相手コートに返そう</p> <ul style="list-style-type: none"> チーム課題、個人課題の把握 練習方法の選択 	<p>仲間のよい姿を認め合ったり励ましの声をかけ合ったりしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> めざす仲間像、きまりの把握 	<p><準備、準備運動></p> <ul style="list-style-type: none"> 係を中心に安全に注意して素早く準備をする <p><全体会></p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の姿から、本時の目指す姿とポイント、練習方法の例を知る <p><グループ計画会></p> <ul style="list-style-type: none"> チームの実態を踏まえ、目指す姿を達成するためのポイントを課題としてもつ チーム課題を達成するための個人課題を明確にもつ(話す) チーム課題を達成するための練習方法や守り方を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動には、1対1、1対2、円陣などのパスを位置付ける ボールをつなぐためのポイントを動きや図を使って具体的に示す ボールの方へ体に向けて1歩踏み出す チームや個人課題と全体課題とにズレがないか確認する チームに合った練習方法が選択できるように複数の練習方法を具体的に示す <p>【思考・判断】 チームの課題に応じた練習方法を選択している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 用具の準備が安全にできているか確認する 前時の仲間と関わる姿の中から、価値ある姿を具体的に話し、本時で目指す仲間の姿を明確にする 互いにかけている声の中から、相手の努力を認め、励ましている声かけの例を挙げ、目指す仲間付近に近づく関わり方について話す 										
展 開 練 習 7 ゲ ー ム ・ 研 究 会 ・ ゲ ー ム 28	<p>カバーし合ってボールをつなぐために、ボールの方へ体向け1歩踏み出すことを意識して練習ができる</p> <p>ゲームのメンバー、ポジション、課題、役割の確認をすることができる</p> <p>ボールの方へ体向け、1歩踏み出してボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる</p>	<p>チームで声をかけ合って練習することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> 指示の声、励ましの声をかけ合う ボールを投げ入れる役を交代して行う <p>ゲームでかけ合う声を確認することができる</p> <p>認め合いや励まし合いの声をかけ合いながらゲームを行うことができる(コート内外)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ナイス」「おしいよ」 	<p><グループ練習></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人がコート外からボールを投げ入れる練習など、グループで選択した練習をする コート3面で、全チームが同時に練習する <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle;"><ゲーム> 1チーム4人が出場する 1試合15点 又は7分間</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1G</td> <td style="text-align: center;">3G</td> <td style="text-align: center;">5G</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2G</td> <td style="text-align: center;">4G</td> <td style="text-align: center;">6G</td> </tr> </table> <p>・A、Cコートでゲームを行い、空いているチームが審判、ゲーム記録係を行う</p> <p>Aコート 1 - 2 2 - 6 1 - 6 Cコート 3 - 4 4 - 5 3 - 5</p> <p><ミニ研究会></p> <ul style="list-style-type: none"> ゲームの入れ替わり時に研究会をする 課題と練習、ゲームの様子、記録を振り返り次のゲームに生かす ゲームの対戦や審判の役割などを確認する 	A	B	C	<ゲーム> 1チーム4人が出場する 1試合15点 又は7分間	1G	3G	5G	2G	4G	6G	<ul style="list-style-type: none"> うまくボールが繋がらないチームに対して練習の途中でボールを止め、ボールに対する体の向きや動き方を確認する うまくできない仲間に、体の動きや図などを使って分かりやすく教え合う姿を価値付け、広める カバーし合うことを意識し、ボールをつなぐと最後までボールを追いかけるチームを称賛する ボールの動きに対して、素早く反応できない児童を中心に見届け、「前」「カバー」など瞬時の声をかける ゲームでボールが繋がらないチームに対して、「はい」「お願い」「カバー」などの指示、連絡の音が有効であることを話す コートの外から指示の声を出している児童を認める 正しく審判を行っている児童を価値付ける <p>【技能】 ボールの方向へ体に向けて1歩踏み出し、カバーをすることができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> うまくできなかったときに、繰り返し取り組んだり励まし合ったりしながら練習しているチームを称賛する コートの外から応援や励ましの声をかけている児童を認め、チームの協力の姿であることを価値付ける 仲間のよさを認めようとしている姿を価値付ける 係の仕事を責任を持って行っている児童を認める <p>【関心・意欲・態度】 仲間の努力やよさを認め合い、励ましの声をかけたり教え合ったりして、力を合わせて活動しようとする</p>
A	B	C	<ゲーム> 1チーム4人が出場する 1試合15点 又は7分間												
1G	3G	5G													
2G	4G	6G													
反 省 会 5	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題達成度について振り返り、カバーし合ってボールをつなぐことができたかを振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 声をかけ合う仲間になることができたかを振り返る 学習のきまりが守れたかを振り返る 	<p><グループ反省会></p> <ul style="list-style-type: none"> リーダー、PQ、MOを中心に、ゲームや活動の様子を振り返る <p><全体会></p> <ul style="list-style-type: none"> グループや個人の成果を発表し合って振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を意識して取り組み、よいプレーができたチームを価値付け、広める ゲーム記録をもとにチームの伸びを取り上げ、価値付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 認めや励ましの声をかけ合って活動し集団凝集度に高まりが見られたチームや個を価値付け、次時への意欲化を図る 										

5 評価の実際と個に応じた指導事例

<p>「運動の技能」の評価規準</p>	<p>ボールの落下点へすばやく移動して両手や片手でボール操作をすることができる (第3時間目に評価)</p>	<p>状況に応じて、オーバーハンドとアンダーハンドの使い分けをしたり、ボールを両手や片手で操作したりすることができる (第4時間目に評価)</p>	<p>ボールの方向へ体を向けて1歩踏み出し、カバーをすることができる (第5時間目に評価)</p>
<p>評価方法</p>	<p>学習カード・観察</p>	<p>学習カード・観察</p>	<p>学習カード・観察</p>
<p>「努力を要する」と判断した状況</p>	<p>ボールが来ても動かず、見送ってしまう ボールに触るが、後ろや横へはじくなど、目標の方向へパスをすることができない</p>	<p>どのような高さのボールに対してもアンダーハンドばかり、又はオーバーハンドばかりを使いうまくボール操作することができない</p>	<p>仲間が打ったボールに反応せず、見送ってしまう ボールを目や顔で追うが、体を動かさそうとしない</p>
<p>その要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディーコントロールができない ・ボールとの距離感がつかめない ・ボールが打たれた瞬間に体を動かすことができない ・体の正面でボールをパスせず、横へ手を出している 	<ul style="list-style-type: none"> ・構えの手が下がり、最初からアンダーハンドを組んでいる ・オーバーハンド、アンダーハンドの判断が遅れ、あわてて手を出してしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールが打たれた瞬間に体を動かすことができない ・ボールの方向に体(つま先)を向けることができない ・チームでつなぎ合うという意識が弱い
<p>指導の手立て</p>	<p>【手立て1】 ボールとの距離感をつかませる ボールを落とさずに、体の正面でキャッチするという経験を多くさせる バケツやコーンを利用してボールキャッチゲームを取り入れる</p>  <p>【手立て2】 オーバーハンドやアンダーハンドなどのボール操作を示範や絵などで具体的に示し、練習させる</p> 	<p>【手立て1】 オーバーハンドとアンダーハンドの使い分けを判断することができるようにする 示範により、どのような高さのボールをアンダーハンドやオーバーハンドで操作したらよいかを理解させる</p>  <p>【手立て2】 チームで、いろいろな高さのボールを投げ、周りからも「オーバー」「アンダー」という声をかけながら練習を行う 円陣パス・対人パスなどで声をかけながら練習する</p> 	<p>【手立て1】 ボールが空中にあるうちに必ず体(足)を動かす習慣を身に付けさせる チーム練習で、3人組または1列でネット越しにボールを投げ入れ、ボールの落下点にすばやく動く練習をする まわりから「動いて」「前」「右」「左」などの声を必ずかけて練習を行う</p>  <p>【手立て2】 コート内で、ボールが行った方向に必ず体(つま先)を向け、1歩踏み出す習慣を身に付けさせる チーム練習でコートに4人が入り、ネット越しにボールを投げ入れ、必ずボールをとる子の方へ体を向けて1歩動くという抽出練習をする 最初はボールを投げ入れてキャッチし、みんなの動きができていかどうかを確認し合う練習を行い、徐々にレシーブからボールをつなぐ動きへ発展させていく</p> 

「運動の技能」 の評価規準	1本目を山なりの高いボールでコートの中へ上げ、つないで相手コートへ返すことができる (第6時間目に評価)
評価方法	学習カード・観察
「努力を要する」と判断した状況	ボールを受けることはできるが、つなぎにくいボールでコートに落ちてしまう 相手コートへ返す時にネットに引っかかりたりコートの外へ飛ばしてしまったりする
その要因	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1本目のボールが低い ・ 1本目のボールがネット際に近づきすぎる ・ ボールコントロールが不十分 ・ 相手コートへ返すときのボールが低い ・ 返したい方へ体を向けずに、ラストボールを打つ
指導の手立て	<p>【手立て1】 1本目を高く上げることのよさを示範によって理解させる アンダーハンドの腕の角度とボールが飛ぶ方向や高さを示範や図で具体的に示し、理解させる チーム練習で、「高く上げて」や「膝を曲げて」「体を起こして」という声をかける バスケットゴールをねらってアンダーハンドパスをする練習も行う</p> <div data-bbox="302 821 862 1045" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;">腕の角度によって、ボールが飛ぶ方向が変わることを示す</p> </div> <p>【手だて2】 ネットよりも高くボールを上げることを意識し、ネット越しに向かい合ってパスをし合う ボールが空中にあるうちに体の向きを変え、相手コートへ体を向けてラストボールを打つ(パスする)ことを意識した練習を行う 周りから「体向けて」「高めに」「真ん中へ」などの声をかける</p> <div data-bbox="302 1252 862 1420" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">  </div>